
湖の女神

犬坊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

湖の女神

【Nコード】

N3348F

【作者名】

犬坊

【あらすじ】

短い一話完結のショートショートです

湖の女神

昔々湖の近くにきこりが住んでいました。きこりは斧で木を切って生活していました。

ある日きこりは手を滑らせて斧を湖に落としてしまいました。斧を無くしてはこれから暮

らしていきません。きこりは必死になって湖を覗き込んでみました。しかし、湖はとても

深く落ちている斧を拾えそうにはありません。きこりが途方に暮れていると、湖の中から

大きく美しい女神様が現れました。女神様は優しい目をしてこうおっしゃいました。

「あなたが落としたのはこちらの金の斧ですか。それともこちらの銀の斧ですか。」

正直なきこりが
「いいえ、私が落としたのは鉄の斧です。」

と答えると、女神は微笑んで鉄の斧に加えて金の斧と銀の斧もきこりに渡してあげました。

それから幾百年もの月日が流れ、道具も便利になりました。別のきこりがチェーンソー

で木を切っていると湖にチェーンソーを落っことしてしまいました。昔と変わらない姿の

女神様が現れ昔と同じようにおっしゃいました。

「貴方が落としたのはこちらの金のチェーンソーですか。」

それともこちらの銀のチェーンソーですか。」

驚いたきこりが正直に答えると、女神はまた微笑みながら金のチェ

インソーと銀のチエー
ンソーを渡して沈んでいきました。

ところがある日そんな森を町にする計画が持ち上がりました。木はあつという間に切りつくされ湖も埋め立てられ、道が通りビルが立ち並び立派な町になりました。

通りすがりの女性が煙草の吸殻を水溜りに捨てていきました。

「貴方が落としたのは……」

その声は小さすぎてその人の耳には届きませんでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3348f/>

湖の女神

2011年1月25日23時25分発行